

平成 22 年度 霞が関から文化カプロジェクト ミニ・コンサートの結果報告

1. ミニ・コンサートについて

- ・文化庁の推進する「文化カプロジェクト」の趣旨に則り、霞が関コモンゲート内において音楽会を開催し館内勤務者が参加することで、霞が関から文化を発信し、地域が元気になることを目的としている。
- ・本コンサートは文化庁と霞が関コモンゲート管理組合（株新日鉄都市開発）が共催で、東館共用ロビー及び文部科学省情報ひろばラウンジにて、平成 20 年 6 月から行っている。
- ・平成 22 年度からは東京藝術大学と提携して、同大学がプロデュースするコンサートも開催している。

2. 今年度の実績（敬称略）

(1)東京藝術大学プロデュース・ミニコンサート

【コンサート一覧】

日時	場所	内容	出演者	来場者数
H22.7.27	東館玄関	サクソフォンのタベ	田村哲、角口圭都、寺田麗美、佐藤淳一	240 名
H22.9.21	東館玄関	尺八のタベ	武田旺山、松岡幸紀、神令、田嶋謙一	120 名
H22.11.8	ラウンジ	古楽器リコーダーのタベ	森吉京子、浅井愛、川端りさ、野崎 剛右	80 名
H23.1.26	ラウンジ	弦楽四重奏のタベ	清岡優子、村津瑠紀、村田恵子、森山涼介	66 名



サクソフォンのタベ



尺八のタベ



古楽器リコーダーのタベ



弦楽四重奏のタベ

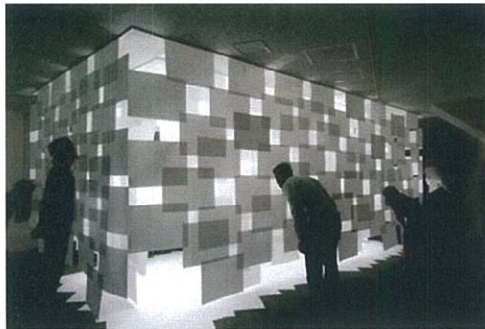
②その他ミニ・コンサート

【イベント・コンサート一覧】

日時	場所	内容	出演者	来場者数
H22.10.6~14	ラウンジ	詩と絵の展示	aCae、森川耕平	240名
H22.10.14	ラウンジ	ライブ	aCae 他	80名
	ラウンジ	ピアノとバイオリン	デュオ三木（三木健嗣、三木登志江）	60名
H23.1.6	ラウンジ	箏の調べ	榎戸二幸、戸塚朋華、寺島貴恵	60名
H23.3.2	ラウンジ	ハーブのタペ	津野田圭	70名

①「光の庭」詩と絵の展示とライブ (aCae)

- ・aCae（アカエ＝大碓正徳）と森川耕平による詩と絵の展示及びアコースティックライブをラウンジで行った。
- ・本格的なアート展示は今回が初めてであったが、ラウンジの雰囲気を一変させるもので、今後の展示イベントの実験的役割を果たした。
- ・ライブはこれまでクラシックを中心としたコンサートとは違い、アコースティックギターを中心とした初めてのコンテンポラリーミュージックであったが、集客もあり好評であったことから、今後のコンサートのジャンルを広げることができた。



詩と絵の展示



アコースティック・ライブ

②バイオリンとピアノのコンサート (デュオ三木)

- ・福山市を拠点に、中国や韓国でも活躍するデュオ三木による2回の公演を行った。
- ・昼の部では、かすみがせき保育室及び近隣保育園の幼児を対象としたコンサートを行い、20数名の幼児が生演奏を楽しんだ。
- ・夜の部は大人向けに「60分間世界一周の旅」と題して、中国・韓国・欧州・南米・北米の民族音楽をバイオリンとピアノの演奏でを行った。



幼児対象コンサート



大人向けコンサート

③箏の夕べ (榎戸二幸)

- ・お正月企画として生田流の榎戸二幸による箏の演奏を行った。バイオリンをゲストに迎え、箏の名曲や超技法を駆使した曲等を行った。



箏の夕べ

④ハープの夕べ (津野田圭)

- ・文化庁新進芸術家海外研修員として海外留学から帰国されたハーピスト津野田によるハープの名曲の演奏を行った。



ハープの夕べ

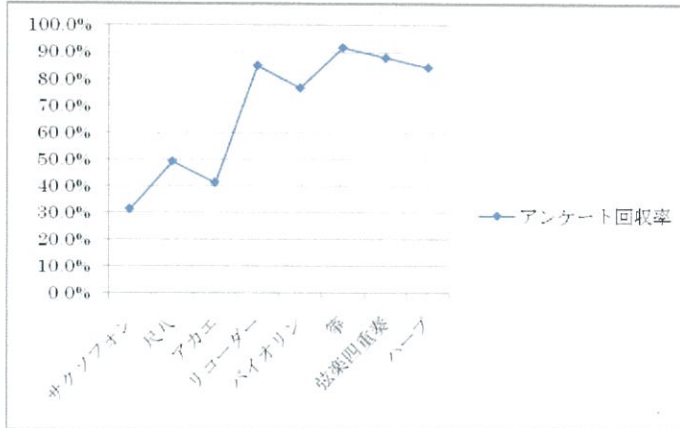
(3)文化庁月報での紹介

- ・霞が関から文化力プロジェクトの活動について、文化庁月報にて6ヶ月にわたり紹介記事を掲載した。9月号は霞が関三丁目南地区の文化の歴史とまちづくりと、それまでの文化力プロジェクトの実績について述べ、以下はコンサートの紹介と報告を記載した。

冊子	内容
H22.9月号	霞が関三丁目南地区のまちづくりと文化、霞が関コモンゲートにおける文化力プロジェクトの取組み
H22.10月号	aCaeのインタビュー
H22.11月号	aCaeのイベント報告とデュオ三木のインタビュー
H22.12月号	榎戸二幸インタビュー (以上、管理組合青柳所長寄稿)
H23.1月号	東京藝術大学プロデュース・コンサートの取組 (同大学松下教授寄稿)
H23.2月号	デュオ三木と榎戸二幸のコンサート報告

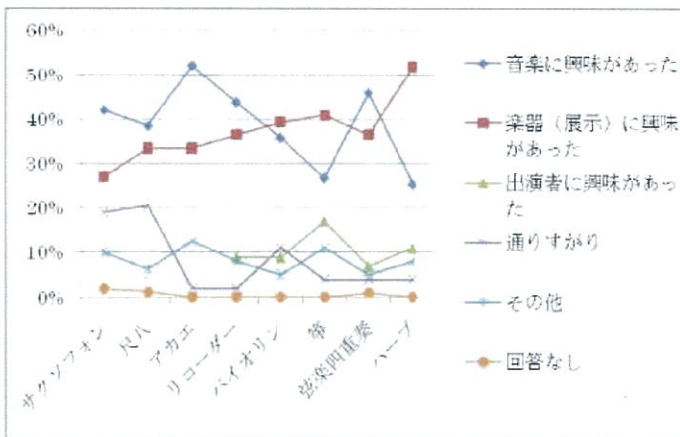
3. アンケート分析

(1) アンケート回収率



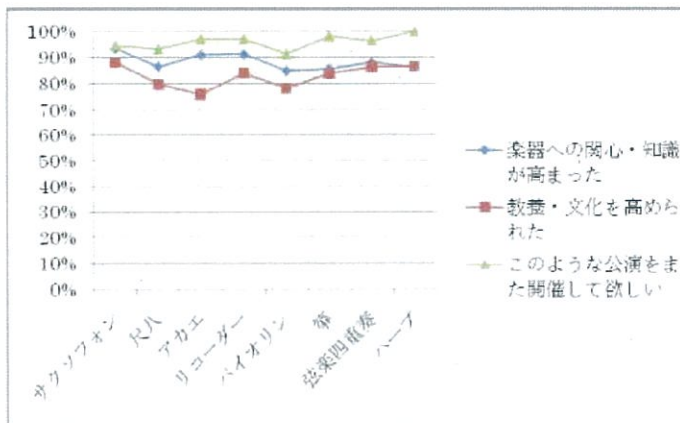
・アンケート回収率は回数を重ねる度に上昇している。

(2) 来場の動機 (複数回答あり)



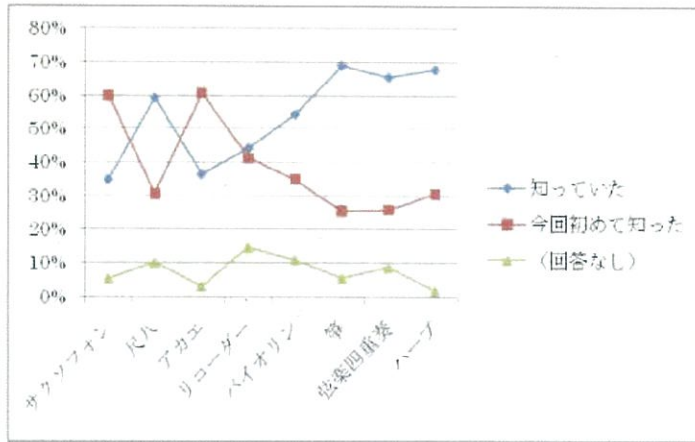
・音楽又は楽器(展示)への関心を合わせると 7~8割近くになる。コンサートを行うこと自体への期待が高いと考えられる。
・東館玄関ロビーで実施した前半2回は「通りすがり」の比率が高い。

(3) 公演の感想 (はい、いいえの選択: 下記は「はい」の比率)



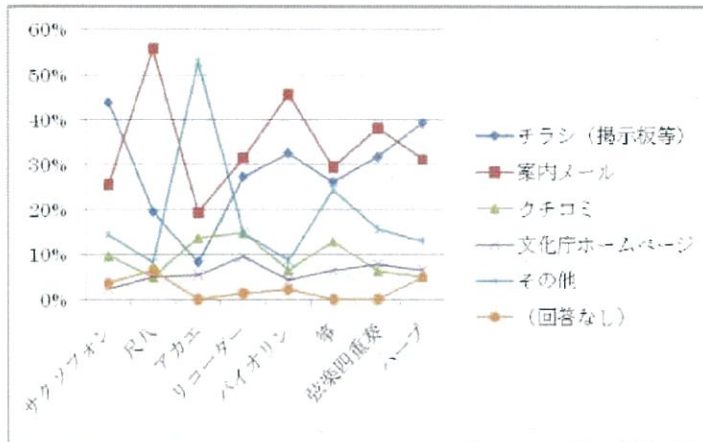
・公演を再度行ってほしいという問いには常に 90%以上が「はい」と回答しており、公演への期待度は高い。
・他の 2 問も高い関心を示している。

(4) 観が関から文化カプロジェクトを知っていたか



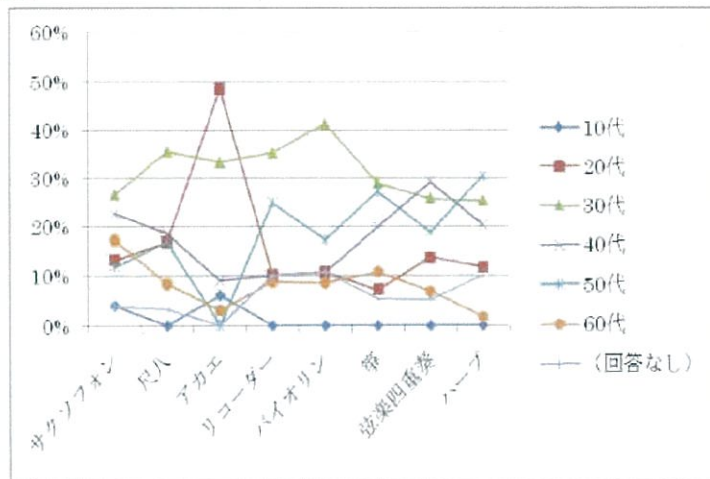
・回数を重ねる度に認知度は向上している。

(5) 認知媒体 (複数回答あり)



・案内メールが常に3~4割を占めているが、最近チラシも増えてきている。
・クチコミは演奏者によるものが大きいと考えられる。

(6) 年齢



・ジャンル別の傾向があるが、30代は安定的に多い。